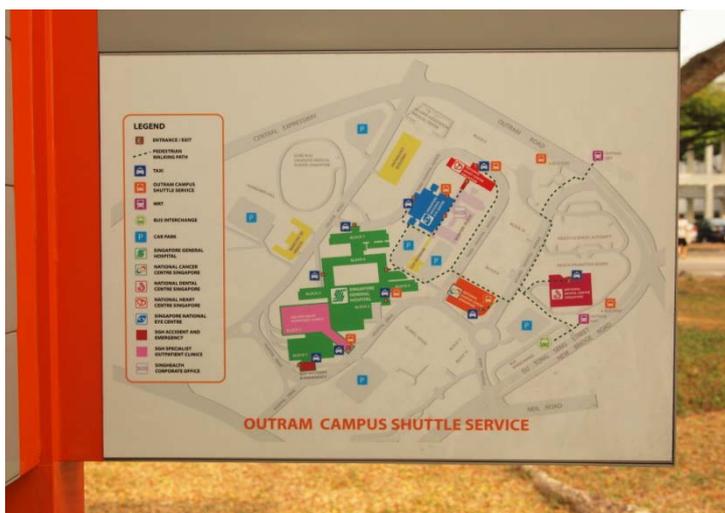


3月8日(月)

海外研修初日 SGH訪問

報告:仲江川 雄太

今日から研修が開始となります。ホテルのロビーに8時に集合し、SGHまで徒歩で移動、ホテルから病院までは地下鉄で1駅、歩いて約15分。病院は広大な敷地にはいくつものセンターが存在しており、一目ではその大きさは想像できません。



【敷地の地図】

病院内も日本の病院とは大きく違い廊下には病院の今までの歴史や功績、患者からの感謝状などがかざられ、吹き抜けのラウンジやカフェもありました。

Postgraduate Medical Institute(PGMI)に到着し、そこでシンガポールの医療状況、研修状況などの説明をしていただきました。

説明の後、病院を見学させていただきました。

ENT centre ENTは日本では耳鼻咽喉科にあたります。1つの診察ブースが非常に広く、センター内に局所麻酔用の手術室まであり、毎日小手術がおこなわれているそうです。センター内には患者教育用の施設があり、耳の機能などを実際に触ったり、聞いたりできるようになっていました。



【ENT Centre 受付】

次の Pain Management Centre では疼痛コントロールについてお話いただきました。

Accident and Emergency Department では一見日本と同じ救急外来のようですが、トリアージ専門の看護師がいたり、まずGPが診療してから必要に応じて専門医に振り分けるなど日本よりしっかりと役割分担がされていると感じました。



【救急外来に掲示してある患者さんの流れ】

Speech Therapy Department ここでは嚥下の機能評価や、喉頭摘出術後患者さんの発声訓練などを行っています。Dr 以外に ST が 17 人も働いており。ST 自らがファイバーを施行していました(日本では Dr のみしか施行できません)。

Physiotherapy Department、**Occupational Therapy Department** にも多くの理学療法士・作業療法士がいました。手術を受けると自動でリハビリを開始するシステムになっているようで、それぞれの専門性が高く医師との役割分担がしっかりなされているようでした。